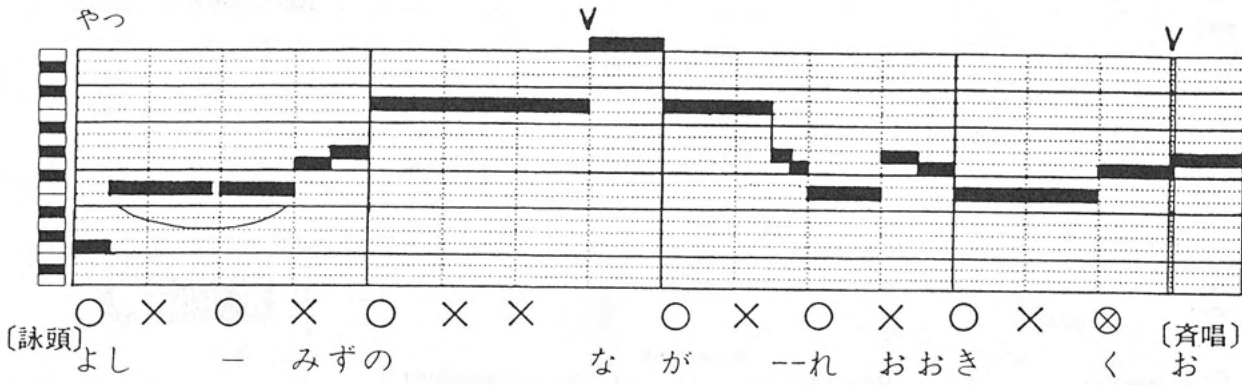
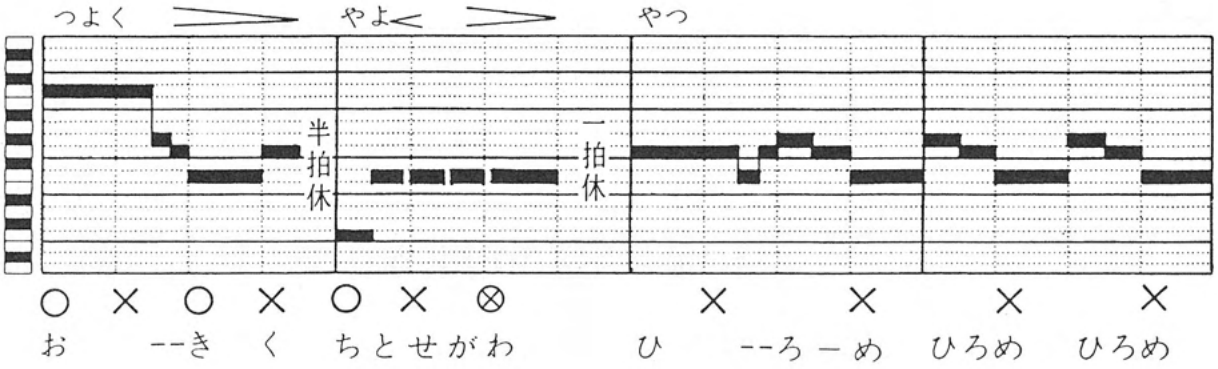
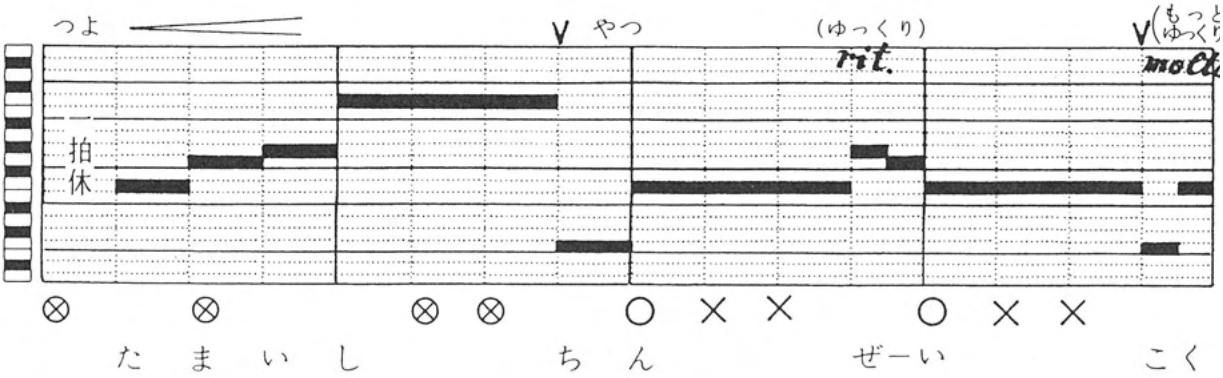
善導寺の御詠歌

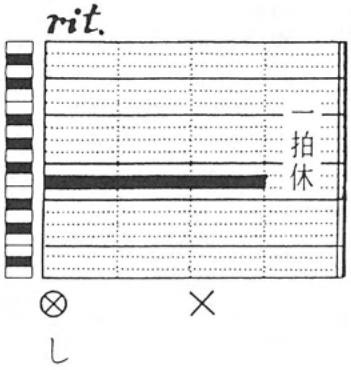
一田善寿台下 御作
松 濤 基 作曲

速く唱える









ポイント注意

- 詠頭「よしみず」の「よし」はシンコペーション。したがって「よ」を軽く、「し」にアクセントつける。
- 「ながれ」の「な」はウラ声でソフトに。
- 「おおきく」の「お」の発声は奥から出す。
- 「こくし」の「し」は感謝と畏敬の念をこめて声をしっかり保つ。

筑後の国　大本山善導寺

吉水の　流れ大きく　千歳川　ひろめたまいし　鎮西国師

（大本山善導寺六十三世愚誉上人一田善寿大僧正御作）

浄土宗第二祖鎮西国師聖光（しょうこう）上人は、善導寺を中心として元祖法然上人の「すべての仏教の行き着くところは南無阿弥陀仏に極まる」というみ教えを努力して広められ、また三祖良忠上人を得て浄土宗の基礎を築かれました。鎮西国師は「赤ちゃんがお母さんを離れて生きていけないように、またお母さんも赤ちゃんを離さないように、いつも仏を離れず常に仏様のお護りに遇いましょう。仏様も私を離しません」「お念仏の頂き方は今死ぬと思えば、真剣に心から念仏ができ、生かされている現在が一段と尊く価値あるものとなります」。と、ますます念仏が深められるよう導かれました。著書の『末代念仏授手印』は五重相伝の二重の伝書です。

愚誉上人は昭和57年（1982年）、大本山善導寺法主に就任。昭和61年寂。世寿78歳。二祖鎮西上人の法灯を継ぎ、布教宣布に多忙の中でも、教誨師として受刑者を導き、俳句の御導等で更生につくし、「死刑囚の父」と呼ばれ、俳人としても著名です。俳号牛畝。

大意　吉水の法然上人のお念仏の御教（みおし）えを、正しく弘く長く伝えて下さった二祖鎮西国師のお徳を讃え感謝いたします。（千歳川は筑後川の別名）